

議会「現在地が適当」

川口市 新庁舎 審議会答申と相違

川口市庁舎の建て替え問題で、市議会の危機管理対策・庁舎整備特別委員会の立石泰広委員長は25日、本会議で「現庁舎および市民会館敷地を適地とする」とする委員長報告を行った。新市庁舎の位置については、有識者でつくる庁舎建設審議会が「SKIPシティ（NHK所有のC街区）

が適地」との答申をまとめており、岡村幸四郎市長は「市長として総合的に判断し、12月議会に必要な議案を提案する」と述べた。

委員長報告によると、委員会ではSKIPシティが適地とする委員は4人、現庁舎とする委員は10人だった。立石氏は「各委員の意見を集約し、庁舎建て替えの候補地の方向性を示すとすると、現庁舎および市民会館敷地を適地とする意見が3分の2以上の大勢を占め、SKIPシティのC街区とする意見は少数にとどまった」と述べた。

思いを考慮すべきで市長、議会の最終的な判断に委ねるべき」と答申した。

答申を受け、市議会は全員協議会や特別委員会などで議論を続けてきた。

立石氏は「特別委員会の意見集約は審議会答申とは逆になった。あとは市長が冷静に総合的に判断されると思う。12月議会で議案が出れば、それについてまた議論を深めたい」と話した。（岸鉄夫）



2013年 9月26日 木曜日
(平成25年)

岡村市長は昨年11月、新庁舎の建設地をSKIPシティか現庁舎のいずれにすべきかの判断を庁舎建設審議会に諮問。同審議会は今年8月、「SKIPシティが適地」としながらも「歴史的経緯、市民の